

第十七次日華(台)親善友好慰靈訪問の旅 帰朝報告

期間 平成二十七年十一月二十二日(日)～二十六日(木)

参加者 三十二名

■ 十一月二十二日(日)

総勢三十二名の今次訪問団員のうち、二十二日福岡出発の三十名は、八時十五分に福岡空港国際線出発ロビーに集合した後、特別待合室で出発式を行いました。訪問の歴史的意義、役員の紹介、注意事項の説明、記念写真の撮影を手短かに済ませ、出国手続きを終えた一行は、四泊五日の旅の期待を胸に、定刻十時五十五分にチャイナエアライン一一一便で空路台北へ向けて旅立ちました。

機内食をいただいて寛いでいるうちに、現地時間十二時三十五分に無事桃園国際空港に到着しました。入国手続きを済ませて空港待合室に出ると、今回で十回目となるガイドの簡添宗さんや黄楷蔡台湾支部事務局長等の温かい出迎えを受けました。早速一行は専用バスに乗り込み、最初の訪問地である明石元二郎台湾総督の墓所を目指しました。新北市三芝区店子村にある福音山基督教墓苑の中腹に位置する元総督の墓所前に整列した一行は、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花の手順で肅々と慰靈式を斎行しました。献花の後、田中道夫副団長の慰靈の言葉、小菅亥三郎団長の補足説明で慰靈式を締めくくりました。

台湾の政権交代に期待

最初の慰靈式を終えた一行は、台北市内へと向かい、昨年と同じ「紫都」で黄文雄先生と六月の台湾特別講演会以来の再会を喜び合いました。会場には黄先生の知己である著名な文化人の方々が二十名余りお集まりでした。話題の中心はやはり一月の台湾総統選で、皆さん異口同音に民進党の蔡英文主席の勝利によって政権交代し、台湾のアイデンティティがより重視されるだろうと語ってありました。遅れて民視電視股分公司的田再庭董事長も駆けつけられ、総統選の結果に心強いエールを送られました。宴が進むにつれ大いに盛り上がり、黄先生はもとより他の皆様方も別れを惜しんでおられました。翌日は朝が早いこともありお暇乞いをして宿泊先の慶泰大飯店に戻り、心地よい眠りに就きました。

■ 十一月二十三日(月)

台湾無名戦士記念碑を初訪問

翌朝ホテルで早目の朝食を摂り、七時五十分台北駅発の台湾新幹線で一気に南下し、一時間四十分で左營駅（高雄）に着きました。専用バスに乗り換えて、高雄市旗津区にある台湾无名戦士紀念碑へと向かいました。これは、許昭榮氏が国共内戦で戦死した一万二千柱の英霊を慰霊するために建立した碑で、初めての訪問です。この日はちょうど月曜日で紀念館は休館だったのですが、私達のために特別に開けて下さいました。許氏の碑前で慰霊式を行い、大山猛副團長の挨拶の後、許氏の娘婿の館長に案内してもらいました。館内ではDVDが放映されており、一行は熱心に見入っていました。一段落した所で館長にお礼を述べて次の訪問地、東龍宮を目指しました。

廟に到着すると、爆竹の音と共に堂守の石羅界様はじめ地元の皆様方が笑顔で迎えて下さいました。早速整列し、田中將軍の御霊鎮魂のために慰霊式を斎行しました。改築は昨年よりかなり進捗していましたが、まだ工事の途中で一日も早い完了を心待ちにしています。廟の皆さんが用意して下さいた新鮮なスイカやポンカンと一緒に美味しくいただいた後、記念写真を撮ってお別れしました。

今年も和やかに会食

その後一行は高雄市内へ戻り、黄明山台湾支部長ご夫妻主催の歓迎夕食会に臨みました。支部長のご家族や同僚の方々と一年振りの再会を喜び、お土産の交換に続いて、黄事務局長の通訳で支部長の歓迎の挨拶、団長の答礼の挨拶の後、開宴となりました。毎年恒例の歓迎会ということもあつて顔馴染みの方も多く、すっかり打ち解けた雰囲気でも話も弾み楽しい一時を満喫しました。二時間余り款も交えて交流を深めた後、名残りを惜しみつつ来年の再会を約してお開きとなり、宿泊先の華王大飯店へ帰りました。

■ 十一月二十四日（火）

松俵常任顧問が七福神の陶面額を奉納

三日目のこの日は、まず保安堂を訪れました。八時三十分という早い時間にもかかわらず、趙麗恵さんをはじめ地元の皆様さんが大勢で出迎えて下さいました。早速、大日本帝國海軍の艦長の慰霊式を執り行い、松俵義博常任顧問が日本から持って来られた七福神の大きな陶面額を奉納されました。

昨年同様、高雄市旗津区の謝水福区長もお見えになっており、前日私達が旗津の台湾无名戦士紀念碑を訪問したことを聞かれて非常に残念がつておられました。地元の皆さんが用意された美味しいぜんざいやバナナ等をいただいた後、高雄市政府へ向かいました。

「福岡宣言」を高く評価

高雄市政府に著くと、総統選挙前で多忙な陳菊市長に代わって、揚明州秘書長が待つておられました。広い会議室で、まず映像による高雄市の紹介があり、続いて揚秘書長が歓迎の挨拶をされましたが、その中で昨年のがス爆祭に対する義捐金のお礼と共に、「福岡宣言」を高く評価されたことに驚きました。訪問団のことをよく調べられておられることがうかがえます。小菅団長は答礼の挨拶の中で、台湾にゆかりの深い本間雅晴中將の縁戚にあたる本間潤子さんが参加されていることを紹介し、縁の深さを強調しました。和やかな雰囲気で一時間余りの表敬訪問を終えた一行は、次の訪問地の飛虎將軍廟へと向かいました。

廟に響く慰霊の喇叭

飛虎將軍廟でも多くの地元の皆さんが待ち受けておられました。爆竹の歓迎の中、廟に到着すると、早速道教の作法に従って儀式が執り行われました。昨年同様、この日と翌日の宝覺寺での慰霊祭のためにわざわざ東京から来られた甲飛喇叭隊第十一分隊の原知崇氏等三名の方が、杉浦茂峰兵曹長以下三柱のために喇叭を吹かれ慰霊の誠を尽くされました。

慰霊式を終えた後、今回は行程に入っていなかった本宮である海尾朝皇宮にも是非御参りして欲しいと所望され、参拝することになりました。海尾朝皇宮は第十二次と第十五次訪問で御参りした所ですが、改めて地元の皆様の信心深さを感じました。

休館日に郭副館長の取り計らいで特別に入館

海尾朝皇宮を後にした一行は、次に新しい奇美博物館を訪れました。元の奇美博物館は何度か訪問し、許文龍氏にもお会いしたことがありましたが、新しい博物館は初めてでした。しかし、残念なことに訪問時期が展示品入れ替えの特別休館日と重なり、全館の見学はできませんでしたが、郭玲玲副館長の取り計らいで特別に入館させていただきました。そしてわざわざ私達のために、高価すぎて値がつけられないバイオリンの数々を見せて説明していただきました。郭副館長は以前とお変わりなくお元気でしたが、心のこもったおもてなしに頭が下がる思いでした。まるで宮殿と見まがう様な建物の正面玄関で記念写真を撮って奇美博物館を後にしました。

会長交代で歓迎会の内容も変化

一行を乗せた専用バスは、一路台中市を目指して北上しました。台中では台湾台日海文会の皆様による歓迎夕食会が十八時三十分から予定されていましたが、海尾朝皇宮に寄るなど行程が少し遅れ、会場には三十分程遅れての到着となり、ここで二泊三日のB班の二名と合流し

ました。会場の外では会の幹部の方々が既に待つておられ、温かい拍手で迎えて下さいました。会場に入ると参加者の顔ぶれが昨年までと少し変わっていることに気づきました。今年は会長が簡朝陽氏から林余立氏に替わったこともあつてか、会員の子供さんやお孫さんが多く参加されていました。ここでも会員の高齢化が進み、会の先行きを懸念してただけに、若い世代への継承が図られつつあることに安堵しました。林余立会長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、乾杯で開宴となりましたが、いままでになく、ミュージシャンの演奏や子供たちの演技が披露されるなど、内容も一変して華やかな宴でした。途中からはカラオケも加わり、時間を忘れて交流を深めてお開きとなり、明日の宝覚寺での再会を約して宿泊先の全国大飯店に戻りました。

■ 一月二十五日(水)

この日は慰霊訪問の最大行事「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列するため宝覚寺を訪れました。参列に先立ち、境内の一画にある日本人遺骨霊安所(日本人墓地)で慰霊式を斎行しました。墓前に整列した後、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花の後、横尾秋洋顧問が追悼の挨拶をされ、しめやかに式を終えました。その後団員全員でお線香を上げましたが、式を見守つておられた一般観光客の方々も多数お参り下さり、一万四千余粒のご冥福をお祈りしました。

慰霊祭参加者全員に『霊安故郷』を配布

日本人墓地での慰霊を終えて、霊安故郷碑前での慰霊祭の席に着くと、日台の国旗掲揚、国歌斉唱、軍艦旗掲揚で開式し、林余立台湾台日海交会会長の主宰者挨拶に続いて、今年も小菅団長が格調高く祭文を奏上しました。今年は、日清講和条約締結百二十年、霊安故郷碑建碑二十五年に当り、祭文、福岡宣言を盛り込んだ『霊安故郷』という冊子を参列者全員にお配りしましたので、帰られた後皆さん熟読されたのではないかと思います。

「海ゆかば」の合唱で慰霊祭を終えた後、台湾の皆さんと一緒に記念写真を撮り、大仏見学等境内を散策して、宝覚寺を後にしました。

ここで、一足早く帰国される中野一則、新開崇司両団員と別れ、途中台中公園に立ち寄った後、台湾中日海交協会主催の歓迎昼食会に臨みました。林政徳会長の歓迎の挨拶、横尾顧問の答礼の挨拶の後開宴となり、北京ダックをはじめ美味しいご馳走をいただきながら、林会長のアコーディオンに合わせて合唱したりと、家族的で賑やかな昼食会を満喫しました。大いに盛り上がる中、名残りを惜しみつつ、記念撮影をして次の目的地、済化宮へと向かいました。

本間中将ゆかりの本間潤子さんが献花

二時間余りバスに揺られて、新竹縣にある濟化宮に着くと、謝鏡清董事長とお宮の皆さんが笑顔で出迎えて下さいました。早速本殿にお参りし、献花式を執り行いました。二礼二拍一礼の後、新潟県の佐渡からご参加の本間潤子さんが献花され、本間雅晴中将の想い出や、初めての海外旅行に台湾を選ばれた心境などを語られました。謝董事長に靖國神社から分祀された四万余柱の霊璽棟を案内して貰った後、社務所前で美味しいお餅とお茶をいただいて寛ぎました。夕暮れの迫る中、来年の訪問を約して山門を出ました。

お土産の歌集に第十三次訪問の和歌が収録

バスで新竹駅へ向かい新幹線に乗り換え、三十分程で台北駅に到着後、台日文化經濟協会主催の歓迎夕食会に臨みました。会場内の各テーブルで黄天麟会長をはじめ役員の方々が笑顔で出迎えて下さり、黄会長の歓迎の挨拶、小菅團長の答礼の挨拶の後、会食が始まりました。次々に運ばれてくる美味しい料理に舌鼓を打ちながら楽しく歓談し、親交を深めました。お土産にいただいた歌集「香る園・第三集」に蔡永興氏の

台日親善 福岡に震災支援の謝辞尽きず 台日親善訪問の宵

他二首の歌が収められており、第十三次訪問を懐かしく思い出しました。いろいろと話の尽きぬ中、来年の再会を期待してお暇乞いしました。

宿泊先の慶泰大飯店にチェックインした後、希望者で士林夜市に繰り出し、夜市散策を楽しみました。大勢の人で賑わう夜店を回り、今年も台湾のパワーをいただいてホテルに戻りました。

■ 十一月二十六日(木)

福岡辦事處の曾念祖前處長がわざわざ訪問

最終日のこの日、前福岡辦事處處長の曾念祖氏がわざわざホテルを訪ねて来られ、バスの中でご挨拶をされ、懐かしい限りでした。初日に明石元二郎総督のお墓参りをしましたので、林森公園(明石元二郎台湾総督旧墓跡)は割愛し、中華民國總統府を見学しました。沢山の団体が順番待ちをしている中、福岡の辦事處にあらかじめお願いしていたお陰で時間通りに入場することができました。各コーナーを説明を聞きながら廻って、台湾の歴史や文化等を学ぶことができ、とても有意義なひと時でした。

外交部でも「福岡宣言」を高く評価

總統府を見学した後、中華民國外交部を表敬訪問しました。接待して下さったのは、李明宗亞東太平洋司総領事回部辦事で、歓迎の挨拶で慰霊のみを目的とした公的支援なしの民間団体は唯一だと言及され、またここでも「福岡宣言」を高く評価されました。続いて小菅團長が福

岡宣言の評価に謝意を表明した上で、日本軍として亡くなった英霊を日本人が参拝することを国家として認めて下さっていることに感謝の意を述べました。その後、質疑応答があり、李氏が丁寧に受け応えされ、終始和やかな雰囲気ですべて表敬訪問を終えました。

山本博久氏が学院にエール

外交部の正面玄関で李氏を交えて記念写真を撮った後、市内のレストランで飲茶の昼食をいただきました。乾杯の音頭を取られた山本博久氏が、慰霊訪問事業を末永く続けるためには、本業の九州不動産専門学院が益々大きくなることが必要と、声援を送って下さったのは、予期せぬ言葉で大変有難く思いました。また、現地の新亜旅行社の社長がわざわざ来られ、台湾情勢を含めて挨拶されました。

昼食を終えた一行は、土産物店に立ち寄ってショッピングを楽しんだ後、桃園国際空港へと向いました。空港に着くと搭乗手続きを済ませ、五日間お世話になったガイドの筒さんと黄事務局長に厚くお礼を述べ、来年の再会を約して別れました。空港を離陸したチャイナエアライン一〇便は十九時三十五分に無事福岡空港に着陸しました。入国手続きを済ませ、空港ロビーで簡単な解散式を行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方の心温まるおもてなしに感謝し、次山のお土産や想い出と共に、一月の帰朝報告会での再会を約して家路につきました。